

まち未来だより

4月 2022 April. 発行

宜野湾市基地政策部まち未来課

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

まちづくり座談会を開催しました！

普天間飛行場返還後のまちづくりにおいては、地権者だけでなく、市民の皆さまの参加がとても重要となります。そのため、本市では跡地のまちづくりについて学べる講座を開催しております。今年度は「エリア価値を高めるまちづくり」をテーマに3回実施し、各回のテーマに詳しい講師を招へいし取組み紹介やディスカッション等を行いました。

第1回 テーマ：エリア価値を高め、持続性の高いまちのつくり方

講師

植松 宏之氏 一般社団法人大阪梅田エリアマネジメント代表理事
大阪大学コミュニケーションデザインセンター招へい教授 流通科学大学経済学部 教授

奥原 悟氏 北谷町デポアイランド通り会 会長

成長プロセスとエリア価値のマネジメントの関係性

- うめきた地区では、開発初期は**公共空間（道路や駅）を活用したイベントを開催し**、来訪者の回遊性の向上を図った。**イベントはその地域に合うものを探ることが大切**である。
- ハード面の整備だけではなく、「ここに来ると何か感じる」「なぜかここに來たくなる」といったような**人の感性に響く仕掛けづくりが重要**である。
- これからのまちづくりは、官民で一緒に取組んでいくことが重要である。



公共空間を活用したイベントの様子(うめきた広場)

まちづくりに関わる人や事業者のモチベーションの高め方

- イベントの手伝いなど、これまで地域住民のために行動してきた事で、デポアイランドの清掃や植栽の手入れ等、地域住民がまちづくりに参画してくれるようになった。**地域住民との関係性を構築し、地域住民が自発的に活動してくれることが重要**である。
- まちづくりを始める前から、**地権者や市民が「まちを育てる気持ち」を持って置くことが最も大事**である。



地域ボランティアによる植栽管理の様子(北谷町)

第2回 テーマ：ポートランドに学ぶパブリックスペースにおける緑や公園のつくり方

海外事例紹介

講師

アメリカ・オレゴン州登録建築家 アメリカ建築家協会
柳澤 恭行氏

【ポートランドの位置】



市内人口：約66万人（2019年）
市面積：380平方キロメートル
全米で人口25位の都市

みどりと人々（地権者・市民）の関わりについて

- 地域でイベントを行うということは、地域にあるものを購入することであり、地域にお金が入る。金額は少ないかもしれないが、**地域間で循環するお金がグリーンインフラの活用により、もっと循環できれば地域への波及効果は高い**のではない。



Community get-to-know
近所交流促進



Community Design
住民参加によるまちづくり

今から、出来ること。今だから、出来ること。

- 宜野湾市の地権者、住民が持っている課題や期待・希望を後世に繋げていくために今から出来ることは絶対ある。沖縄は昔、神社の境内に集まるコミュニティの象徴があったと聞いている。**地域の再認識はイベントをすることによって、もっと広がる**と思う。それが今からできることではないだろうか。

参加者からの質問

Q. まちづくりへの投資効果は、施設的なものよりみどりの方が高いと考えるか。

→すぐにプラスαとはいかないが、**繋がりのあるみどり（オープンスペース）を作ると費用対効果も高くなる**。施設は陳腐化してしまうが、みどりは少しずつ手を加えていけばかなり良い状態を保つことも可能である。変更も施設と比べて容易であるため、**将来的なフレキシビリティとしては効果が高い**と考える。



Interest-based Advocacy
趣味仲間から社会活動へ

第3回 テーマ：柏の葉に学ぶ 公民学連携のまちづくり

講師

アーバンデザインセンター柏の葉 副センター長
三牧 浩也氏

柏の葉キャンパスタウンについて

- 柏の葉キャンパスタウンは、**まち全体が大学**のようになり、様々な研究開発がまちで行われる。**研究開発を市民や企業が応援し参加し、次世代型のまちづくりを一緒に進めている**。大学の図書館や色々な機能を市民に開放することで、市民はいつでも学びにアクセスすることができる。



まちづくりへの関心の向上に向けて

- 関心が薄い人に無理強いはいない方がよいが、中には、健康に関するアプリが無料で利用できること知れば、少しお得に感じてサービスを使用してもらえるかもしれない。**入り口をいくつも設けることで、様々な関わり方ができるようにしておくことが大事**だと考えている。

参加者からの質問

Q. 緑地ネットワークの保全強化の中で、緑被率40%維持という高い目標を掲げられているが、今後も継続的に目標を実現するために、考えている取組みがあれば教えてほしい。

→海外の緑あふれる都市の緑被率は40%であり、「緑の中のまち」の水準として40%を目指したということ。もう一つは、**道路や公園、調整池等のオープンスペースを100%緑化するものとして、民間敷地内を25%緑化することで、地区全体で見た場合40%になるという試算**からである。

【「まち未来だより」発行元】

宜野湾市役所 基地政策部 まち未来課
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩一丁目1番1号
電話 098-893-4401（直通） FAX 098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。

普天間飛行場跡地のまちづくりに取り組む ヒントを福岡県の視察を通して探しました。

WeLove天神協議会

2006年4月に設立された福岡市天神のまちづくり団体（エリアマネジメント団体）である。九州最大の繁華街である福岡・天神エリアが将来にわたり賑わい、さらに明るく元気で魅力的な街になることを目的として設立された。設立当時の会員は76社・団体であったが、現在は130社・団体まで広がっている。

【街の目標像】

- 上質に洗練され、いつも賑わいがある「歩いて楽しいまち」
- 環境にやさしく安全安心、だから誰もが「心地よく快適に過ごせるまち」
- 変化に対応し、アジアの中で「持続的に発展するまち」

【主な取り組み】

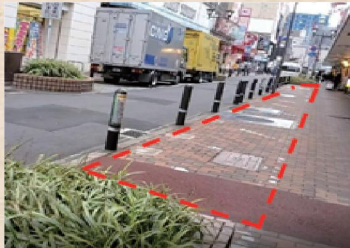
- ・天神クリーンデー（清掃活動）を毎月1回実施し、防犯パトロールへ参画を行っている。
- ・公共空間を活用した新しいまちの過ごし方（天神憩いの時間と空間プロジェクト）を実施した。
- ・路上にあったサイクルポストを撤去することで、歩道は広くなり歩きやすい道となっている。

【公共空間の活用】



福岡市役所西側「ふれあい広場」では、季節ごとのイベントを開催。来街促進・にぎわいを創出することで、天神への親しみや地域との繋がりが生まれている。
(写真：天神クリスマスマーケット)

【歩いて楽しいまちの実現】



サイクルポストを撤去することで、歩道も広くなり歩行者中心の空間創出になっている。

質疑応答

天神地区のまちはきれいという印象を受けた。周辺住民が、「自分たちのまちは自分たちできれいにしていく」という意識を持つことが大切ということか。
→シビックプライドを醸成したいという取り組みでもある。天神は「消費されるまち」ではなく、「**愛着のある自分の地元**」と思われるまちにしたいと考えており、そのために様々な対策を行いたいと考える。

NPO法人 循環生活研究所

「コミュニティの努力を通じて、病気を予防し、身体的・精神的な健康を促進する『たのしい循環生活』を実現する」ことを目的に活動を行っている。「主婦が感じる生活圏」、「人々の顔が見える距離」を、コミュニティ形成を図る上でちょうど良い範囲である、「半径2km圏」をひとつの基準として栄養循環のしくみを構築する。

【目 標】 必要なものが地域で循環するたのしくて安全な暮らし

【主な取り組み】

- ・市民が使用できる貸農園が35区画位あり、毎年抽選で貸出しを行っている。教育農場も兼ねており、大学、幼稚園と保育園、保育所が利用している。
- ・香椎照葉北公園に木枠の**コンポスト**を置き、落ち葉を回収し**堆肥化**する活動を始めている。
- ・九州産業大学との取り組みとして第六次産業を勉強するプロジェクトがあり、和白干潟でとれたアオサを堆肥として陸に戻し有機農業に活用する授業がある。



質疑応答

活動の一つである「堆肥をつくるコンポスト」の取り組みは、今からできることの1つでありとても良いと感じた。
→今から「地域の中で資源が循環する」ということを住民と一緒に学び実践する事ができると、新しいまちができた時にローカルフードサイクリングの取り組みが受け入れられると考える。現在、企業が所有しているマンション予定地でコミュニティガーデンの活動を行っている。まちづくりの計画を立案する際は、**地域住民が集まることができる場所を考慮し**、市民農園などハード面の整備をあらかじめ想定しておくことが重要である。

城野駅北土地区画整理事業

北九州市のJR城野駅北側に位置する約19haのエリアであり、陸上自衛隊分屯地の移転とUR団地の建て替えによる跡地の発生等を契機として、開発に向けた検討が始められた。その後、ゼロカーボンのまちづくりを目指すことについて関係者間で合意がなされ、財務省、UR都市機構、市の3者による基本協定の締結や協議会によるゼロ・カーボンまちづくりガイドラインの策定が行われた。

【目 標】 人がつながり、多世代が「暮らし続けられる」「ゼロ・カーボン」と「子育て支援・高齢者対応」のまちづくり

【特 徴】

- ・国有地が地区面積の約75%を占めており、従前の土地所有状況としては殆どが公共団体及び都市再生機構所有地であった。
- ・歩行者や自転車利用を重視した専用の遊歩道は道路線形を緩やかな曲線で設計し、地区を東西に横断できない道路計画とし、通過交通を排除している。

●城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業

- ・ゼロ・カーボン先進街区はエネルギーを全く使用しないというわけではなく、消費する分を地区内で生産する考えで「ゼロ」と考えている。
- ・地区の南北を貫く自転車歩行者道（エコモール）は、徒歩による地区内への回遊性や、地区外からの駅までのアクセスを高めることや、歩行者だけではなく自転車も配置できる特徴がある。エコフロントには、植栽等も積極的に整備している。
- ・緑化率については、敷地面積に対する割合として10%以上確保することを義務付けている。(3街区は景観協定が結ばれており、敷地面積の20%緑化となっている)



一般社団法人 城野ひとまちネット

城野駅北地区の良好なまちの価値を維持・向上させるため、地区内の住民や事業主等がまちづくりに主体的に取り組むタウンマネジメント組織で、平成27年3月に設立した。

【目 標】 みんなで創るまち、みんなで育むまち

【主な取り組み】

- 住民コミュニティ部会** 2019年4月に発足された持続可能なまちづくりのために、住民主体でまちの魅力向上や、課題解決の提案などを行う会でだれでも参加可能である。
- TETTE会** 毎月第三土曜日に家族の交流をメインとした活動や、居住者の声を大切にしたいイベントを開催。
- 北九州市立大学 地域創生学群 ボン・ジョーノ実習** 広報活動やグリーンマネジメント等の活動に関わっている。
- くらしラボ** お掃除ラボ グリーンラボ DIYラボ TETTEを拠点とした各活動を「くらしラボ」と呼ぶ。キッチンラボ ヘルスラボ スマートライフラボ テーマ別に6つのラボで構成している。
- 事業者との関わりについて** 2019年4月に住民コミュニティ部会発足後、住民が直接ボン・ジョーノ事業者に協力を呼びかけボン・ジョーノ実習生がボン・ジョーノ事業者との企画を促してくれたことがきっかけで様々な企画に参画し始めた。



地区の中心にあるTETTE集会所



利用者は入口にある予定表に記入する。

質疑応答

北九州市立大学の学生との「地域創生学群ボン・ジョーノ実習」があるということであるが、学生がタウンマネジメント組織に参加するメリットとして何があるのか。北九州市立大学と連携する上で工夫していることがあればご教示いただきたい。
→実習プログラムとして単位取得につながるため、活動に参加する学生も多い。中には卒業後もまちづくり活動に関わる学生もいる。理由としては、まちづくりに熱心な住民コミュニティ部会の部長がおり、その方の熱意に皆さんが引き寄せられることが非常に大きな要因である。